

ご下付物②

～ご神水・お土～



大本では、神さまにお供えした水や土は神さまの霊気(神気)を帯びたありがたいものとして、水は「ご神水」、土は「お土」と呼ばれています。

神さまの神気を受けたお水やお土…なんだかすごいパワーがありそうですね！

今回は、大本で下付されているご神水とお土、またその頂き方について紹介しましょう。



みろく博士

ご神水(金明水)
・お土下付玉串料

ご神水(金明水)

……1,000円以上

ご神水(金明水)

壺入り……2,000円以上

お土 ……1,000円以上

ご神水(金明水)・お土は、綾部・長生殿 亀岡・万祥殿、東京本部で下付されています。

ただし、壺入りのご神水(金明水)は、綾部と亀岡でのみ下付されています。

地方などに発送を希望される場合は、別途送料が必要になります。お申し込みの際にご確認ください。



火・水・土の恩

二代教主出口すみ子さまは、火・水・土などの天地の神さまのみ恵みを、短歌で分かりやすくお示しくださっています。左に紹介してあるのはそのお歌の一部です。



私たちはいつも、神さまの大きな恵みに包まれて生きています。「当たり前」の生活は、実はとても貴重で、ありがたいものです。

そんな神さまのみ恵みをいっばいに受けたご神水、お土を頂く時には、神さまへの真剣な祈りと感謝の気持ちをもち、信仰的に頂きましょう。

親の親親の親々たづぬれば親は土なり火なり水なり

人はみな土よりいでて土に生き土の恩うけ土にかくる

天はちち母はいづくにましますぞ母は大地のお土なりけり

天地の神の恵みは野も山も寝るも起きるも経つも歩むも

火のご恩水のおめぐみ土の恩これが天地の神のみすがた

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>
※「大本いろは」は大本ホームページ(信徒専用ページ)から、カラーでダウンロードできます



<連絡先>



神気を受けた水

「ご神水」とは、神さまにお供えされ、その神気を受けた尊いお水のことです。

よく「神さまにお供えしたお酒(お神酒)はおいしくなる」といわれませんが、それも神さまからの神気を受けたからこそです。



ご神水を頂く時は

ご神水は、感謝の気持ちをもって、ありがたく頂きましょう。
コップ一杯の水に対して、少しのご神水を入れて頂くなどの工夫をすると、ご神水を長い期間頂くことができますよ。



お土の力

一般的にも、清浄な土は豊富なミネラルを含み、消化作用を促し、滋養強壮、解毒などの効果があるとされています。止血作用のある漢方薬「黄土湯」の主成分はかまどの内側の焼けた土なのだそうです。

開祖さまは「お土があるからみなが生きておられるのじゃ。何万円の金よりも一にぎりのお土のほうが、どれほど大切か分からぬ」とお諭しになり、お土をたいへん尊ばれました。



大本本部では神さまにお供えした清らかなお土を下付しており、そのお土で、たくさんの方がご神徳を頂かれています。お土は医薬品ではありません。感謝と畏敬の気持ちをもって頂きましょう。
では、実際にお土はどのような方法で頂いたらよいのでしょうか。その方法を二つご紹介します。

【壺(丹波立杭焼)】



三代教主出口直日さまの筆による「きむめい水」(金明水)の書が刻まれている

ご神水(金明水)

大本本部(綾部・長生殿、亀岡・万祥殿、東京本部)で下付されているご神水は、大本の聖地である綾部・梅松苑の金明水の井戸からくみ上げたお水を、神さまにお供えしたものです。
重入りのご神水下付を希望された場合には、右の写真のようなひょうたん型の壺に入れて下付されます。
(※綾部、亀岡限定)
ご神水のみの下付の場合は、一升瓶または一・五リットルのペットボトル



ルをお持ちください。(容器がない場合は本部で用意します)
大本本部から下付されるご神水は大寒の日にくまれたものなので、冷蔵庫などの冷暗所に置いておくと、一年間は保存できます。
また、長生殿(老松殿)や万祥殿、東京本部の拝殿の横には、ご神水が入った水玉とかわらけが用意され、参拝者が随時頂くことができますよ。なっています。

溶いて患部に塗る

①器にお土を入れ、水を少しずつ加えて混ぜる

※スプーンですくうとゆっくり落ちるくらいの固さ。ねんざなど、冷やしたい時には冷水、あたためたい時はお湯で溶くことよ



②患部に貼る

※直接患部に塗りにくい場合は、ガーゼにくるむと固定しやすくなります



③乾いたら器に戻し、水を加えて練り直す

※血液や膿が付いたら、そのお土は地に戻しましょう



上澄みを頂く

①コップにお土を入れ、水に注いで混ぜる

※お土の量はコップ一杯の水に対してティースプーン一杯くらいが目安。お水はご神水を使われるとなお結構です



②水が澄むまで置く

※ほこりが入らないよう、ふたをしておきましょう



③上澄みを頂く

※何度も練り直し頂いていると、お土が目荒い砂状になります。その場合は感謝して地に戻しましょう



金明水

綾部・梅松苑の元屋敷の東側にある井戸の水が、三代教主さまの産湯にも用いられた「金明水」です。

明治三十四年、元伊勢の産鹽・産釜の水晶のお水と、出雲大社の御饌井の清水とが井戸に注がれ、金明水と命名されました。

第二次大本事件で神苑は破壊され、金明水の井戸も埋められてしまいましたが、事件後の昭和二十六年七月十八日、再掘作業により、土中に埋もれた金明水の井戸が掘り当てられました。

現在、みろく殿前の手水鉢には、金明水が引き上げられています。

開祖さまが『今に京都・大阪あたりからこのお水をいただきました。汚れたお土はどうすればよいですか？』
A: お土は清潔にして使用する事が大切です。時折様子を見て洗いましう。
大きめの容器にお土を入れ、その上からたっぷりの水を入れて、軽くかき回します。ゴミや汚れが水面に浮き上がってきますので、その水を静かにこぼします。お土まで流してしまわないように注意しましょう。
なお、使用する水は清潔であれば水道水や井戸水でさしつかえありません。

こんな時どうするか。



洗い終わったお土は元の容器に戻して火打ち石(切り火)で清め、新たなお土を加えて練っておきましょう。